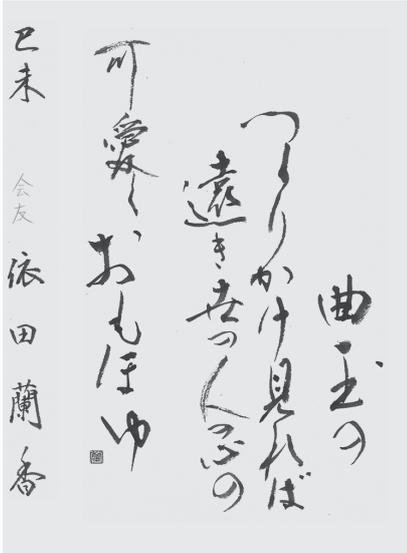


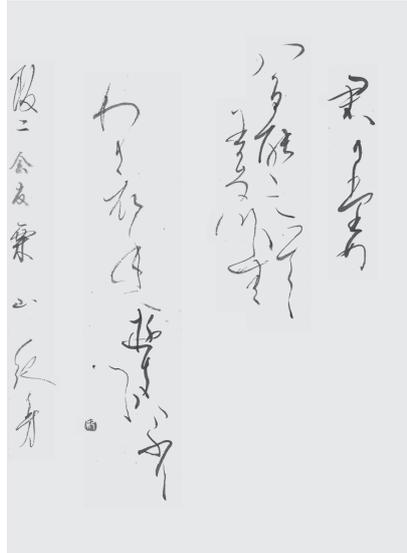
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



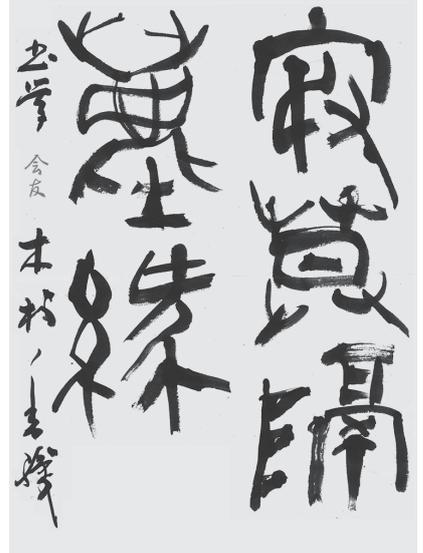
巳未 依田 蘭香 線の変化、墨色良く、素直な配置が爽やかである。文字の概形、余白も含め自然な風景を見る趣きがある。
(審査評 二宮 桂秀)

【かな半紙】



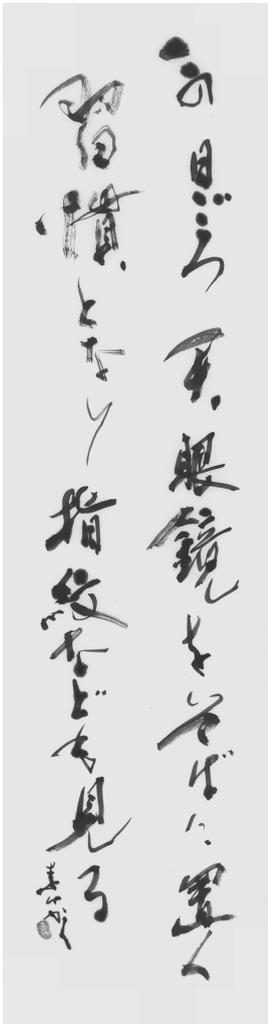
阪二 栗山 紀芳 規模雄大にして墨の潤濁の流れが自然。線の多様な変化、太細の表現に錬度の高さを感ずる。やや右上がりの字が多い。
(審査評 岩浪 春鳥)

【漢字半紙】



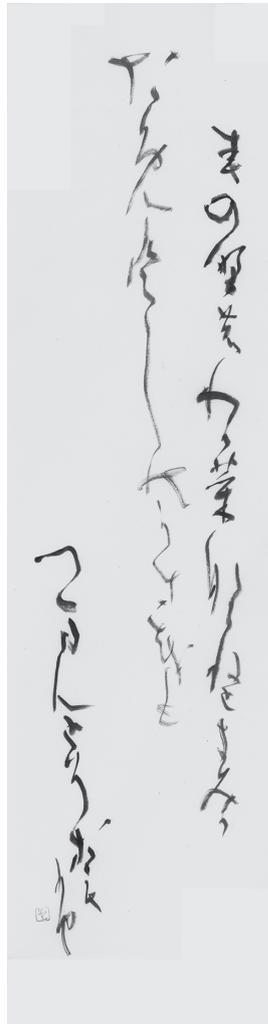
書学 木村 香織 甲骨文をベースにまさに大巧若拙、一見稚拙に見えるが多彩な線を駆使して巧みに造形し、古の雰囲気漂う会心作。
(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



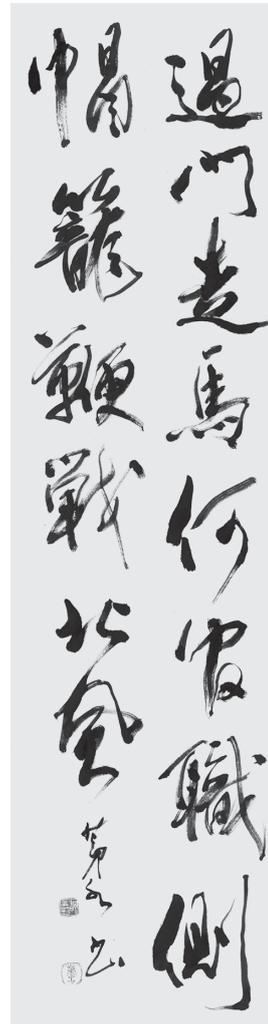
采女 熊野 素心 墨量の加減、文字の懐の広狭、線の抑揚の変化あり。行の響き合いもあり、清楚で余白の余韻を醸し出している。
(審査評 東仲 遙邨)

【かな条幅】



祥瑞 河野 愛子 配慮すべき要素が複雑で難しい構成だが、上手にまとめられている。熟練の深みのある線で、趣き深く、お洒落に仕上げた。
(審査評 川島 史子)

【漢字条幅】



松 角田 茅水 文字の大小・線の太細・墨の潤濁の変化が奇を衒わず、互いに作用しあい品致の高い作品である。配慮ある墨色も見事である。
(審査評 永井 香樹)

2月提出の競書の写真版全作品は、2月26日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

壬子 年六 勝矢幸花
寂莫隔 塵縁

依賀 年七 松尾志
寂莫隔 塵縁

史学 海老名忠実子
寂莫隔 塵縁

M 年六 芳賀 齋
寂莫隔 塵縁

本月 金友 芝 華園
寂莫隔 塵縁

書学 年六 富田真実子
寂莫隔 塵縁

美空 年七 大津 揚月
寂莫隔 塵縁

名 年八 都 久美
寂莫隔 塵縁

中山 年六 依藤 止子
寂莫隔 塵縁

悠 年六 長谷川 悦子
寂莫隔 塵縁

土筆 年五 奥前 和江
窺天 鑒地

書学 年六 尾崎 裕仁
寂莫隔 塵縁

星霜 年七 内田 秀珠
寂莫隔 塵縁

史学 年八 久向 玉恵
寂莫隔 塵縁

名 年六 吉田 和子
寂莫隔 塵縁

書学 年五 森原 志海
窺天 鑒地

玉娥 年六 公文 純子
寂莫隔 塵縁

青葉 年七 和田 昌子
寂莫隔 塵縁

史学 年八 長山 美穂子
寂莫隔 塵縁

西華 年六 原 志香
寂莫隔 塵縁

墨研 年六 紙居 瑞風
窺天 鑒地

松室 年七 市原 節子
寂莫隔 塵縁

郁翠 年七 小林 昌子
寂莫隔 塵縁

和歌 年八 竹田 櫻香
寂莫隔 塵縁

百合 年六 山崎 和子
寂莫隔 塵縁

柏葉 年五 横田 真智
窺天 鑒地

岩書 年六 加藤 須代
寂莫隔 塵縁

書学 年七 山本 蓮香
寂莫隔 塵縁

千草 年六 瀬戸 裕子
寂莫隔 塵縁

人古 年六 友井 ひとみ
寂莫隔 塵縁

青花
書字
宇田利加
鑒窺
地天

書字
山根美穂子
鑒窺
地天

書字
竹中奈々
鑒窺
地天

書字
阿部文江
鑒窺
地天

書字
本間登之
鑒窺
地天

湯山
和菜美晴
洋初
鑒窺
地天

書字
須賀純子
鑒窺
地天

望水
飯島美在
志
鑒窺
地天

香竹
天笠利奈子
鑒窺
地天

洗心
三浦道倫
鑒窺
地天

書字
追川麻美
鑒窺
地天

書字
野中桃子
鑒窺
地天

箱根
川原美智代
鑒窺
地天

書字
菊地秋子
鑒窺
地天

仙水
筋野仁香
鑒窺
地天

書字
初貝明美
鑒窺
地天

書字
安田朋未
鑒窺
地天

書字
和泉新
鑒窺
地天

蓮花
友部満
鑒窺
地天

書字
鈴木美佳子
鑒窺
地天

梧星
金澤華憐
鑒窺
地天

青花
田中領子
鑒窺
地天

書字
桐澤一浩
鑒窺
地天

書字
火瀬智子
鑒窺
地天

大棟
倉田二三
鑒窺
地天

藤
佐々木美香
鑒窺
地天

書字
岡本麻弥
鑒窺
地天

春日
山口恵子
鑒窺
地天

書字
宮下香奈
鑒窺
地天

書字
松田雅美
鑒窺
地天

品濃
面背
洛芒
浮水六六六

三木
面背
洛芒
谷生 萌華

青松
鑑窺
地天
松介 訓子

書学
鑑窺
地天
林 幸子

一楊
鑑窺
地天
金子有志

巨石
面背
洛芒
西田舟芳

中原
面背
洛芒
鈴木里奈

書学
鑑窺
地天
永野寛文

書学
鑑窺
地天
唐木真理子

天り
鑑窺
地天
南雲 苗

千間
面背
洛芒
熊木 沙吉子

瑞樹
面背
洛芒
宇田菜月

書学
鑑窺
地天
山中 幸

書学
鑑窺
地天
林 実千子

松寿
鑑窺
地天
元木重希子

立親
面背
洛芒
三原 智佳子

武庫
面背
洛芒
後藤 沙織

小岩
鑑窺
地天
岡部 智子

書学
鑑窺
地天
中島 岳人

五香
鑑窺
地天
内野 陽奈

信照
面背
洛芒
塚比マサ子

品濃
面背
洛芒
佐藤 晴真

心月
面背
洛芒
前川ひろみ

羊
鑑窺
地天
内藤 奈々江

書学
鑑窺
地天
宇田川 裕子

三芝
面背
洛芒
秋山 貴巳

書学
面背
洛芒
今中直美

唐廟
面背
洛芒
山田菜穂子

書心
鑑窺
地天
楠崎美智子

書学
鑑窺
地天
松本康乃

松橋 半五
門 其 小

~~~~~  
 此の春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

祥瑞  
六 縁の 子

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

小亭
七 藤原 美幸

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

横浜  
河野 晶子

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

祥瑞
河野 晶子

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

魚占 半五 依田 忠昭

~~~~~  
 此の春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

幸五
来栖 智子

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

杉並 七段 中お千晴

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

書学
八 吉原 典子

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

宗澤 全友 山田 青楓

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

松前 四 美川 俊介

~~~~~  
 此の春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

高橋 半六  
徳永 美奈子

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

石坂 半七
児山 美穂

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

水室 八  
市川 裕美子

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

書学
伊能 和子

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

書学 四 林 友紀

~~~~~  
 此の春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

書学 五
及川 理佐

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

水心  
津波 若山 かな子

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

永岳
迫 和洋子

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

書学 半全友  
上條 直子

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

七 げ 四 段
永井 兼秀

~~~~~  
 此の春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

巖崎 五  
前田 兼秀

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

武里 六 段
田 裕子

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

伊賀 半八  
橋 不 兼 代 美

~~~~~  
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ
 春のつれづれ

七 げ 半全友
長瀬 好恵

~~~~~  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ  
 春のつれづれ

書学  
真田夏鹿

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

翠
雅二殿
大越悠美

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

埼玉  
二  
浦崎真由美

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

書学
清水有紀

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

松戸  
津田  
依田恒子

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

書学
安田朋木

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

和  
初  
渡邊一代

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

不安
二
青木貴姫

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

佐  
賀準三  
生島名興子

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

南丘
津田
齋藤桂子

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

大井  
雅初  
飯沼杏奈

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

圭
空
初
木下百合子

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

書学  
小宮楓栞

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

書学
前田名嶺

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

静芳  
津田  
阿久伴麻里

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

海光
雅初
竹内真以子

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

三雲  
初  
北村とみの

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

書学
小林明佳

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

相模  
二殿  
井上美紀

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

書学
三
富永江蓮

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

書学  
深谷美久

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

書学
赤田千志

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

春日  
山口恵子

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

大楠
二
山崎和子

~~~~~  
 むんぬのけちあお  
 くらゆまにうら  
 せはなれりこも  
 わよしてきりらふ

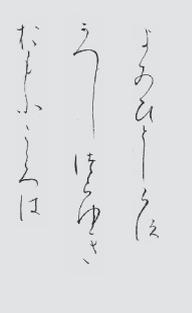
書学  
三殿  
穴藏智子

~~~~~  
 むんぬのけちあお
 くらゆまにうら
 せはなれりこも
 わよしてきりらふ

かな半紙

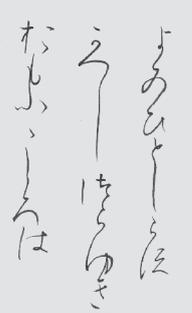
今月の優秀作品

加茂 坂上由美 7



よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

書学 藤谷雪比 6



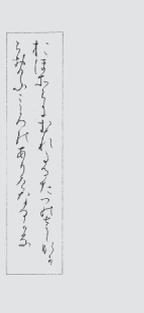
よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

登米 佐藤祐子 4



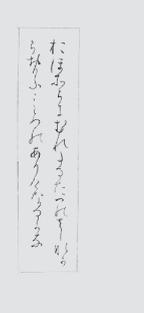
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

書学 岡本麻弥 2



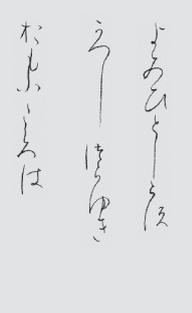
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

大楠 内田祐子 1



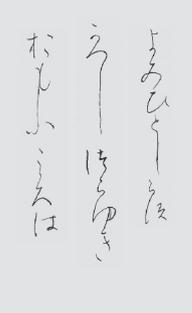
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

山口 西田舟芳 8



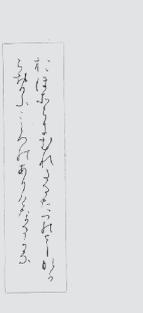
よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

唐扇 山田菜穂子 6



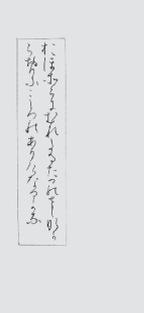
よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

書学 濱野里砂 4



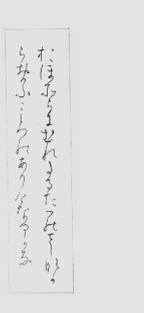
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

書学 遠川麻美 3



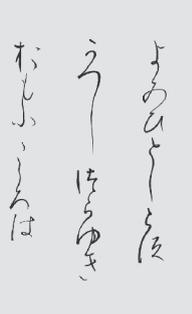
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

南丘 大井雅子 1



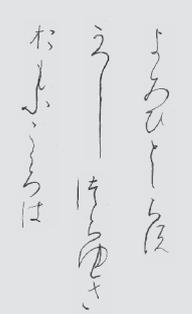
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

幸田 齊藤凜桜 9



よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

筆 葭原明弘 6



よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

書学 植月直美 5



おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

書学 網野和子 1



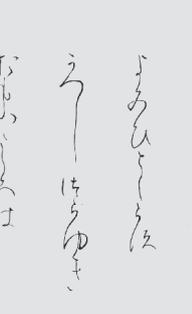
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

加古 井上梨沙 1



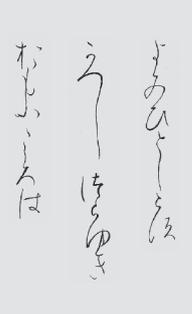
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

書学 中島岳人 9



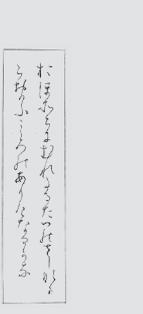
よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

書学 林公美 7



よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

五香 垂山登喜子 5



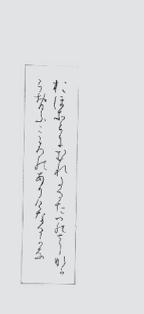
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

書学 松本康乃 3



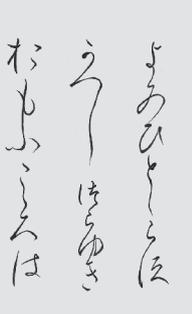
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

米吉 中島裕子 2



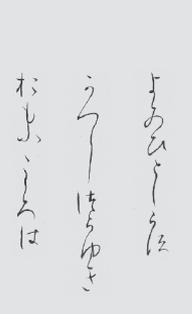
おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

書学 尾崎裕仁 10



よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

書学 長田備子 7



よあひとと長
うー けりやき
おもしろいは

大楠 千明博子 5



おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

瑞樹 橋本豆由 4



おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

五香 内野陽菜 2



おほあふむれもたつて
らあふむれありなうらふ

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の人の心の
可愛くおもほゆ

青葉 馬場 千枝子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

東西七段 北都美智子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の人の心の
可愛くおもほゆ

出雲 長山美穂子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛くおもほゆ

ねま 奇藤和音

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の人の心の
可愛くおもほゆ

心合友 河合風祥

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の人の
心の可愛く
おもほゆ

赤花 六段 玉井洋子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

ハ 保 七 久 保 頼 子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛くおもほゆ

岩書 八加藤 絹代

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛くおもほゆ

下里 神田 隆久

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の人の心の
可愛くおもほゆ

西宮 中島 美幸

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

書学 準六 富田 真実子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

水書 準七 早坂 彪寿

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛くおもほゆ

書学 準八 坂井 玉葉

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

書学 八段 小谷 隆子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

心合友 片岡 泰子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

書学 田原 俊

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の人の
心の可愛くおもほゆ

南丘 七 遠藤 友佳

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛くおもほゆ

書学 七 金沢 保暎

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

心合友 板井 一忠

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

松部 友友 石曾 穂香

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

堂里 六 我 洋 典 子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

五段 六 見玉 久容

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

水書 七 河合 美由紀

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

日暮里 八段 大倉 美奈子

曲玉の
つくりかけ見れば
遠き世の
人の心の可愛く
おもほゆ

水書 六 月 美 丹

書学 初段 山根美枝子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書学 二級 江本真理子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書学 三段 川村三彩子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

幸五 未栖智子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書学 五 宗像陽子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書の 初 東條朱芳
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書の 二 在岡 裕子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

芳水 三 柴原かおる
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

筑波 澤田真也
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書学 五 尾崎美和子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

昭島 中村恭子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

香竹 二 云宅有里
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

湘南 三 加藤志保
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

終島 四 櫻井多恵
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

川書 田中琇翠
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書学 準初段 村田佳寿子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

最北 三 川原美智代
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書学 準三 宮下香奈
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

香竹 準四 天竺利衣子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

香松 準五 澤水清香
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

楡屋 準初 柳本之琴
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

御殿 三 北田里香
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

楡屋 準三 神田宿倫
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

佐伊 三 能谷美子
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

書学 三 中井王鏡
 ます
 自分自身を
 最大限に發揮する
 考えよう

川根 白龍賀代子 8級
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

羊 内藤奈々江
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

青空 高橋忠美子 4
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

相武 渡辺由紀 2
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

大田 涌井敬子 1
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

若原 村田広志 8級
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

大書 中川智恵 6
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

宇土 御園生貴子 4
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

大桶 矢口あかり
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

近衛 山崎美佐代
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

関賀 半田由紀子 7
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

川口 養田和子
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

芳園 鳥山ひとみ 5
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

ク。 都倉千代乃
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

青空 木下百合子
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

書学 福田志子 9
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

書学 安藤雅子 7
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

関 中畑智佳恵 5
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

書学 河村幸子
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

青空 脇田早紀子 2
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

愚草 浅香直美 10
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

書学 林公美 7
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

書学 網野和子 5
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

青山 神田朝子 4
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

加茂 長谷川明香 2
 菊の香
 かるた切るうしろ
 んと澄み

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
岩書 伊藤 信子

書字 渡辺 昌弥

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
蘭燈 草間 倫子

書字 草間 倫子

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
洗心 村松 永好

書字 村松 永好

莫見長安行樂處空
令歲月易蹉跎
佐波 淺野 典子

書字 淺野 典子

莫見長安行樂處空
令歲月易蹉跎
書字 小野 佑里花

書字 小野 佑里花

寒鳥忽高翔
丙午始筆 依里花只

書字 松本 康乃

寒鳥忽高翔
丙午始筆 康乃公

丙午始筆 康乃公

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
天草 池辺 千枝

書字 龍門 長崎 心岳

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
紅衫 高 ななみ

書字 高 ななみ

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
袖 横山 玲子

書字 横山 玲子

莫見長安行樂處空
令歲月易蹉跎
加茂 田辺 祐妃乃

書字 田辺 祐妃乃

莫見長安行樂處空
令歲月易蹉跎
漣 国府田 悠

書字 国府田 悠

寒鳥忽高翔
丙午始筆 悠月 悠

書字 松寿 友澤 留美

寒鳥忽高翔
留美公

留美公

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
ブラ 高橋久美子

書字 三条 小阪 幸江

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
大磯 岩本 麗翠

書字 岩本 麗翠

過門走馬何官職側
帽籠鞭戰北風
香根 澤水 清香

書字 澤水 清香

莫見長安行樂處空
令歲月易蹉跎
書字 眞田 夏鹿

書字 眞田 夏鹿

莫見長安行樂處空
令歲月易蹉跎
書字 埼玉 海老根真利子

書字 海老根真利子

寒鳥忽高翔
丙午始筆 真利子書

書字 木村 恵美子

寒鳥忽高翔
丙午始筆 恵美子書

丙午始筆 恵美子書

かな条幅

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

白山 松岡 清翠

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

永岳 中澤美弥子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

加茂 長谷川芳恵

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

書字 金丸 真理

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

永岳 中島 裕子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

柏華 横田 眞智

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

書字 安藤 雅子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

ぬま 齊藤 和青

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

日暮 大唐美奈子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

川書 田中 琇翠

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

西府 山口 正

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

書字 竹中 奈和

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

清和 武石有希子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

漣 国府田 悠

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

建中 渡邊 翠月

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

芳野 山川智恵子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

山本 青柳 光祥

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

森川 沖野 奏芽

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

書字 野中 桃子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

秋月 室山和佳子

春の野も若菜を畑にまき
 土を教える人思ふ

芳水 柴原かおる

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

桃林 斎藤 江葉

蘭燈 山崎 燈水

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

市書 森 留美

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

加西 小田 七重

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

生山 岸田 弘水

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

書字 細川 美帆

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

惺星 高橋 圭子

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

圭子 高橋

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

百合 外山 香風

書字 三宅 恵子

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

千厩 千葉 咲子

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

永岳 岡部 瑛心

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

書字 久間砂登美

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

千蘭 斉藤美千代

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

調布 加藤 志保

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

志保 加藤

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

書字 井上 昌子

双玉 川元 双玉

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

伊賀 岡田 宏美

この日ごろ天眼鏡をそばに置く
習慣となり指紋なども見る

書字 中井 初美

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

書字 荻田有香子

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

祥風 東出 彩佳

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

仙水 筋野 仁香

輪がぎりの巾着をほせる朝の門
京の繪師より繪はがきつみぬ

仁香 筋野

教習名
こま
氏名
植田 玉苑

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
福山
氏名
谷川 かおり

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
金子
氏名
金子 シゲ子

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
書学
氏名
川村 三彩子

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
圭石
氏名
品田 依子

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
熊本
氏名
吉川 千代子

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
天草
氏名
黒川 良子

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
MM
氏名
芳賀 鳳 鳥

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
芳水
氏名
柴原 かおる

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
たろ
氏名
久 富 智 代

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
伊賀
氏名
山口 智代

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

教習名
ぬま
氏名
齊藤 和青

明けましておめでとうございます
迎春のお慶びを申しあげます
謹んで新年のご挨拶を申しあげます

細 字

若魔民若為魔所著者若夜叉若羅刹若
鳩摩荼若毗舍闍若吉蔑若富單那若毒
地羅等諸惱人者皆不得便是人若行若
立讀誦此經我今時乘六牙白馬王與大
菩薩眾俱詣其所而自現身供養守護安
慰其心亦為供養法華經故是人若坐思
惟此經今時我復乘白馬王現其人前其
人若於法華經有所忘失一句一偈我當
教之與共讀誦還令通利今時受持讀誦

書学 細川 美帆

心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

九書 石橋 栄子

圓寶法隆寺集經字華經
若魔民若為魔所著者若夜叉若羅刹若
鳩摩荼若毗舍闍若吉蔑若富單那若毒
地羅等諸惱人者皆不得便是人若行若
立讀誦此經我今時乘六牙白馬王與大
菩薩眾俱詣其所而自現身供養守護安
慰其心亦為供養法華經故是人若坐思
惟此經今時我復乘白馬王現其人前其
人若於法華經有所忘失一句一偈我當

佐野 千葉 悦子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 山根美枝子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

RU K.ピクトリア

若魔民若為魔所著者若夜叉若羅刹若
鳩摩荼若毗舍闍若吉蔑若富單那若毒
地羅等諸惱人者皆不得便是人若行若
立讀誦此經我今時乘六牙白馬王與大
菩薩眾俱詣其所而自現身供養守護安
慰其心亦為供養法華經故是人若坐思
惟此經今時我復乘白馬王現其人前其
人若於法華經有所忘失一句一偈我當
教之與共讀誦還令通利今時受持讀誦

日報 藤原 一雄

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

大船 青木 弥生

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 尾崎美和子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 北江 恵子

審査評—秋山 凌雲
規定「壽安」



書字 金丸 洋輔
春秋戦国時代の貨幣『方足布』を模した意欲作。古雅な趣に満ちている。



新書 宮城 康湖
力強い白文と繊細な朱文。朱白のバランスが巧みで見応えある朱白相間印。

随意「敬器以満覆」



島田 田村 潔
巧みな穿挿により五文字を上手く配置。全体の調和が取れた安定感のある作。

規定(華)

審査評—松岡 雪華
書美の真髄を求める漢字の一字書——



神子 吉田 紅夢 躍動感のある豪快な運筆で、草書の筆脈の流れを豊かに表現。筆圧の変化による潤濁が冴えわたる穏やかな最終画が作品を際立たせた。

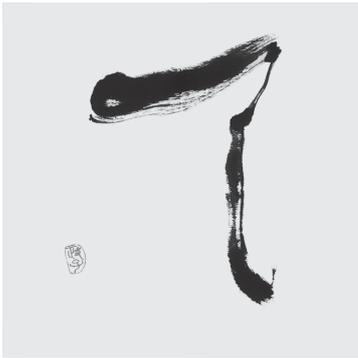
平心 長田 哲香 鍛え抜かれた線條で、金文に現代的感覚を盛り込み樂趣に富んだ力作。やや弓なりになった骨力ある縦画により、野に咲く草花を彷彿とさせる。

松林 岩浪 春鳥 作為のない柔軟な運筆と筆の閉閉により、線の太細を巧みに表現。微風が通り抜けるような空間処理が見事。

M M 市川 華泉 草書体の造形に工夫を凝らした紙面構成が斬新。緩急自在の豊かな線條に最終画の直線の冴えが作品を引き締めている。

随意(て)

審査評—松岡 雪華
诗情や筆遣ひの極意を知る平かな表現——



岩書 伊藤 信子 字源の「天」を生かしつつ、滋味溢れる深い線質で大胆に「て」を表現。墨色も良く、天に向かうような情趣を感じさせる。

こず 村岡 初江 筆鋒を巧みに変化させた自由自在な運筆で豪快に表現。適度な潤濁が作品に品致を与えている。

兵庫 絹川 佳苑 筆の開閉に筆圧をきかせての骨力ある線により、字源の「天」を感じる。押印により作品が安定した。

桑原 佐伯 政子 内含の筆遣いで、縦画に省略された点画を凝縮させ、穏やかに表現。格調高い作品となった。